

命より大事な救い (マルコ 8:27-38)

その人がどのような願いを持っているかによって、その人の人生は左右され決まります。そして、その願いというのは、その人が何に価値を置いているかによって生まれるものです。しかし、クリスチャンの私たちはここで、その願いということが神様の願いを知らずに果たして正しい願いを持つことができるかということ問いかけなければなりません。それはあり得ないことです。なので、何を願うか、何を求めるかの前に、神様の願いは何なのかということをし正しく理解することが大切なことであり、まず求められることとなります。神様の願いはいったい何でしょうか。

1. 神様の願いは人の救いである。

第一に、神様の願いは私たち人が救われることです。神様は罪人の私たちが救われることを願っておられるお方です。私たちがこのままになると、そのまま滅びてしまいます。また、自分で頑張ったとしても、それがすべて裏目に出るしかない運命に囚われている者なのです。

1) 救いと救いを味わうこと、救いを伝えること(他人の救い)

なので、それをいちばんご存知の神様は、私たちが何より救われること、そして救われた人はその救いの祝福を存分に味わうことを願っていらっしゃいます。なぜかと言いますと、そうすることでまだ救われてない他のたましいが救われるように、この救いの祝福を伝えることができるようになるからです。他の人が救われるためにこの救いの祝福を伝えること、これが神様の願いです。他の人も救われなければならないので。世の中では戦争のない平和な世界を求めて必死で頑張っています。もちろん、そういうふうにはなりません。地球が終わるまで。平和な世界はとても大切なのですが、それが神様の願いではありません。クリスチャンの私たちだけは勘違いしてはいけません。また、金持ちになって裕福に生活すること、それは悪いことではありません。みなそれを願っていますが、神様の願いではありません。病気にならないで健康に過ごすこと、それは大切なことでしょう。みなそれを願っています。しかし、健康になることが神様の願いではありません。クリスチャンの私たちも勘違いしています。出世すること、それは神様の願いではありません。また、善良な人になること、心優しい人間になること、それもとても大切なことです。しかし、善良な人、優しい人間になること、それは神様の願いではありません。また今の時代、世界のテーマは環境保全にあります。環境を破壊して地球温暖化によって自然災害がどんどん増えています。だから、環境を大事にすることはとても大切なことに間違いありません。しかし、神様の願いは環境保全ではありません。また、人権を取り上げて平等に扱い、差別のない社会を作りましょうということを訴えています。とても大切なテーマに違いありません。しかし、差別のない社会を作ることが神様の願いではありません。これからこの部分はキリスト教会がものすごくダメージを受ける部分です。世界中が同意してキリスト教だけがこれに同意できない、そういう時代がもう目の前に来てるので気をつけなければなりません。教会もみなたぶん 90%以上はそれが神様の願いであるかのように思って賛成してついて行くかもしれません。しかし、クリスチャンの私たちは明確にしなければなりません。人権平等による差別のない世界を作ることが神様の願いではありません。神様の願いは罪人の人間である私たちが救われることなのです。

2) ヨハネ 3:16

聖書にはヨハネ 3:16「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである」と少しも迷わずに明確に宣言しています。

3) 霊的事実を認めると

私たちが混乱しないで世の中と世の流れと一緒に流されずに、神様の願いを正しく理解し、その願いの上をしっかり立つために、霊的事実を心から素直に認めないといけません。なぜ神様の願いは世の中でみな大切に思って求めている様々な願いがあるにもかかわらず、それではなくて人が救われることに神様の願いがあるのでしょうか。霊的事実を素直に認めるとそうならざるをえません。霊的事実というのは、言葉を裏返しますと、人間では絶対解決不可能な問題を、すべての人間が人類がそれを抱えている

という意味なのです。それが霊的事実なのです。目に見えません。世の中では誰も認めていません。教えることもできません。しかし、聖書にはみな霊的事実、人間の力ではどうにもならない問題を抱えているんだということをおしえています。だから、聖書から目を離しては正しい人生の道を歩むことは無理なのです。霊的事実は何でしょうか。神様によって造られた人間なのに、そのいのちの根源である神様を離れてしまった結果、人は優しい人間であれ、ダメな人間であれ、知識があろうがなかろうが、人のたましいは死んでしまいました。死んだままの状態です。先進国であれ後進国であれ、関係ありません。これが霊的事実なのです。たましいが死んだ結果、自動的に目に見えないこの世の神と言われている悪魔サタンの奴隷になるしかありません。これが霊的事実なのです。だからどんなに頑張っても仕方がなく、罪とのろいの運命に捕らわれて地獄に行くしかない運命を抱えて生きる存在になってしまいました。これが霊的事実なのです。この霊的事実を認めるとすれば、神の願いは世の中で唱えているようなものではなくて、人間の救いにあるということに同意するしかありません。それが理解できるようになります。それが理解できる存在は、クリスチャンの私たちの他にはありません。神様の願いは、私たちが健康になることではありません。皆さんが良い大学に良い会社に就職することではありません。人のたましいが救われない限り、そのすべてが無駄なことになるので、神様の願いは人のたましいが救われることです。

4) 最初から(創世記 3:15)

だから神様最初から他のことをおっしゃらずに創世記 3:15、女の子孫が生まれて蛇の頭を踏み砕くよ。キリストが来られて悪魔のしわざを打ち壊して私たちの罪の身代わりとなるということをお約束されました。キリストが来られること、それが神様の願いなのです。なぜなのでしょう。キリスト他に人間の救いの道はどこにもないからです。皆さんが修行するから、知識を積むから、頑張るから、瞑想するから救われるのでしょうか。とんでもありません。親が優しいと幸せになれるのでしょうか。親がとんでもないおかしい人間だから不幸なのでしょうか。それが全部勘違いなのです。霊的事実を知らないからみなこんがらがっているだけなのです。神様を離れているからです。キリストの他には道はありません。最初から神様はそのことの他には何もおっしゃることがありませんでした。

5) すべての歴史をそのために

それで地球のすべての歴史は、この神の願い、この契約が成就されるために動かされていたものなのです。神の願いのために、つまり、キリストが来られるために、人の救いのためにすべてがありました。これは神様の願いが何なのかわかった人の見方なのです。神の願いが救いにあるということを知っている人の歴史観がこのようなものなのです。すべての歴史は神の願いのために、人間の救いのためにありました。イスラエルの民がなぜ造られて召されたのでしょうか。キリストが来られるために。つまり私たちの救いのためにです。その後、キリストが来られるまでずっと様々な歴史がありました。国が盛んで滅びたり。なぜそういう歴史があったのでしょうか。キリストが来られるために。私たちが救われることのために。なぜヨセフは濡れ衣を着せられて刑務所に行ったのでしょうか。神の願いのために、私たちが救われるために、キリストが来られるためにそういうことが許されていました。ダビデはなぜ死の影の谷を歩くつらい思いをしたのでしょうか。キリストが来られるために、私たちが救われるためなのです。イスラエルはなぜ捕虜にされたのでしょうか。もちろん、イスラエルの罪のためなのです。しかし、罪のゆえになぜ捕虜にされなければいけなかったのでしょうか。キリストが来られるその道のために、つまり神の願いである私たちの救いのためにそういうことが許されて、また動かされていたということなのです。もちろん今礼拝を捧げている皆さんひとりひとり、自分の人生を振り返って様々なことがあったでしょう。それに対してどのように思って、どのようにそれを解釈して見ているのでしょうか。なぜ皆さんにそういうことがあったのでしょうか。そのすべてが皆さんとキリストが会うためなのです。キリストが皆さんに来られなければ、どんなに勉強が優秀でもその人生は希望の無い人生なのです。神の願いは皆さんがキリストと出会って救われることなので、そのために私たちには納得できない、時には理解できない理不尽なことも許されていたわけなのです。神の願いのために。キリストのために、救いのために。これが神様の願いなのです。

2. 神様の願い(救い)は絶対価値であり、善悪の基準になる。

なので二番目です。この神様の願い、つまり私たちの救いは絶対価値であり、この神の願いによって、

善悪がわかるようになります。神の願いは善と悪の基準です。これが分かっていると、世の法則や今まで縛られていた様々なルールから自由になることはできません。神の願い、人の救いは絶対価値であり、善悪の基準になります。それを一番明確に示された方がイエス様ご自身なのです。今日の弟子たちにこのようにおっしゃいました。「わたしをだれだと言っていますか。」いろいろなお話があって、あなたがたはわたしをだれだと言うのかと聞かれ、「あなたはキリストです」。すごい告白をしました。

1) イエス様-十字架(ピリピ 2:8) 全世界<命>救い、ルカ 14:15-24

その告白の上にイエス様は初めてイエス様ご自身が十字架で死なれること、苦しみを受けた後、十字架で死なれて3日目に復活なさることに対して弟子たちにお話をされました。キリストと告白したので。イエス様を信じて教会に通うようになったので、イエス様の苦しみと十字架のことをお話しされました。するとペテロがイエス様の脇の方に来て「イエス様、それはダメなんです。イエス様が十字架で死なれることなどあり得ません。そんなのできませんよ。私が止めますよ。そんなことおっしゃらないように」と言ったわけです。なんと素晴らしいことでしょうか。イエス様は神様ご自身です。イエス様は神の御子なのです。罪のない方なのです。苦しみを受ける理由、十字架で想像できない侮辱の中で死なれる理由など一つもないそういう方なのです。なのになぜ十字架で死なれるのでしょうか。到底理解できません。だから、ペテロの行動は充分理解できます。しかし、理由は一つしかありません。神の願いのために、人間が救われるためにその十字架が必要だったのです。他に理由はありません。絶対なのです。神の願いは絶対です。私たちの常識や何か利害関係等々でいろいろ計算しても、到底当てはまらない、理解できないことであろうけれども、理由は一つ。それが私たちが救われるための神の願いが成し遂げられることのための方法であり、道であればその道を進むわけです。絶対なのです。お分かりでしょうか。弟子たちはこの話を聞いても全く理解できていませんでした。そこでイエス様がこのようなお話をされます。もし全世界を手に入れたとしても、死んだらおしまいでしょう。つまり、全世界よりあなたがたの命、この命は漢字の命です。この命が奪われると意味がないのではないのか。つまり命が上なんだよという意味でしょう。しかし、その命が百個あったとしても、あなたがたが救われない限りは、その百個の命をもって地獄に行くしかないよ。だから、救いがその上なんだよというお話をされたのです。わたしについてくるためには、自分の十字架を背負ってというのは、このような意味を持つわけです。絶対なのです。救いより価値あるものはありません。ありえません。ルカ 14:15-24を見ますと、例え話をおっしゃいました。パーティーを開いて客を招待したわけです。すると、みな言い訳があります。畑を買ったばかりなので、そこを調整しないといけません。今結婚したばかりなので行けません。牛を買ったばかりなので、牛の世話をしないといけません。いろいろなもつともな理由がありました。しかし、その招待した人は怒りを露わにして「もういいよ。他の道端の乞食でもいいから、みな連れてきて席を満たしなさい」というお話をしました。つまり、イエス・キリストを信じて救われることを断る理由、言い訳になるような理由は宇宙に存在しない、絶対なんだというおしえなのです。神の願い、人の救いは絶対価値であるということをご覚悟しましょう。それでピリピ 2:8にもイエス様のことをこのように表現しています。「自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われました」。なぜでしょうか。神様の願いのために。それほど絶対なのです。

2) パウロ-コロサイ 1:24

そして、人間の方からその様子が見られるその代表的な人物がパウロなのです。パウロはコロサイ 1:24でこのようにのべています。「ですから、私は、あなたがたのために受ける苦しみを喜びとしています」。なぜでしょうか。苦しむことがいいという意味ではありません。サディストではありません。その苦しみを受けることが神の願いを全うするためのプロセスであれば、喜んで受け入れるよということをおっしゃっているわけです。「そして、キリストのからだのために、私の身をもって、キリストの苦しみの欠けたところを満たしているのです」。キリストの苦しみを自分に満たすというのは、誤解してはいけません。今申し上げましたように、キリストが成し遂げられた救い、その人の救いのために用いられるプロセスにおいて苦しむというものは、キリストが味わったのと同じ苦しみだからということですか。分かりますか。それは喜んで受け入れるよと。絶対なのです。絶対。苦しいからダメ、やりやすいから進むといった次元の話ではありません。神の願い、人の救いは、皆さんが思っているようなものではなくて絶対価値です。イエス・キリスト、罪のない神様ご自身が十字架で苦しめられて死ぬほど絶

対価値なのです。パウロが言っているのは、イエス様を信じない理由は存在しない。また、伝道しない理由なども存在しないということです。

3) 神の願いに益-善、神の願いを妨害-悪

なので当然、この神様の願いに益になるもの、その方向に立つものを善と言います。そして、この神の願いを妨害するような内容になれば、それがどのような内容であれ、神様は悪とおっしゃいます。旧約の時代にタマルという女の人がありました。結婚して子どもを産まないといけません。このタマルはキリストが来られるための家系なのです。だが、子どもを産むというのはキリストと直結しているものなのです。でも旦那さんがみな死んで、まだ最後の子どもは幼かったので、しゅうとが大きくなってから結婚しようということで延期しました。しかし、大きくなって何の動きもないのでタマルが娼婦に変装して、そのしゅうとを誘って一緒に寝て子どもが生まれることとなります。後にしゅうとはそのことが分かって怒りを露わにしました。嫁さんが身ごもったという噂を聞いて。しかし、その相手があなたですよという証拠を出したら、そのユダというしゅうとがこのように言いました。「あなたが私より正しい」と。これが善です。もちろん、その女性がやった行為を善とか合理化するつもりはありません。なかなか今の皆さんの頭で理解できないかもしれませんが、神様の願いは絶対です。善悪の基準です。私たちが持っている善悪の基準は常識なのです。それは本当の基準ではありません。それに縛られる理由はありません。でも、無視してもいけないのは、他の人が救われることのためにセンス良く対処する知恵と余裕を持たなきゃいけないものであるからで、それが基準ではありません。神の願い、キリスト、救いに有利なのか、それを邪魔するのかによって善悪が決められることになるんだということです。それほど神の願い、人の救いは絶対なのです。

3. 神様の願いを知らないと、自分の願いの奴隷となり、サタンのパシリになる。

だから最後の三番目です。神様の願いはこのようなものなので、この神様の願いを知らないと、結局、自分の願いの奴隷となり、サタンのパシリになります。自分がサタンのパシリになろうと意図をしているかどうかと関係ありません。神の願いを知るか知らないかがこれほど大切なことなのです。世間の言葉で申し上げると、人の運命を左右することなのです。神の願いを知らないと「まあ、知らないんだ」で終わるものではなく、自分の願いの奴隷にならざるを得ないし、サタンのパシリになります。

1) ペテロは良かれと思ひ「下がれ、サタン」

ペテロは良かれと思って「イエス様が苦しめられて十字架で死ぬなんてありえません。私が止めますよ」と言いました。もちろん心の中では別の考えがあったわけです。イエス様のことを思ってやったことでしょう。普通だったら「ペテロ、お前は私のことをそこまで考えているのか。命がけで守ろうとしているんだね。良き忠実な働き人よ」などと言うのが普通でしょう。でも私たちは想像もできない反応を示されます。ペテロが良かれと思ってイエス様を止めようとした時に「下がれ、サタン」とおっしゃったのです。ペテロにいまサタンを助けようという思いはこれっぽっちもありません。しかし、結果的にサタンのパシリの役割を果たすことになってしまいます。なぜでしょうか。いくら良かれと思うことがあっても、神様の願いが絶対価値であるということが分かっていると、そうならざるをえません。「下がれ、サタン」。たぶんペテロはびっくりしたでしょう。ペテロはイエス様が大変な目に遭わないようにと思ってやったことでしょう。ほめられることを期待しているのに、ほめられることはなくても、ここまでひどくおっしゃるのかと思うような場面ではないでしょうか。たぶん、私たちのレベルもだいたいこのような水準かもしれません。でも、イエス様はここでおっしゃいました。「下がれ、サタン」。

2) パリサイ人-マムシの子、ヨハネ 8:44

パリサイ人は良かれと思って、神様をより正しく熱心に信じるつもりで律法をしっかりと守り、そしてそれに足りなくていろんな項目を突き出して徹底的に守ろうとしました。別に悪い思いでやったわけではありません。しかし、それが神の願いに反することであり、神の願いを邪魔する壁になります。だから自分も救われないし、他の人の救われる道を遮断するものだと言われるわけなのです。神の願い、人の救いが絶対基準なのです。それを知らないと、なんでパリサイ人はそこまで言われるのか分かりません。ここまで言われました。「マムシの子らよ」。ヨハネ 8:44には、「あなたがたは、あなたがたの

父である悪魔から出たものである」とおっしゃいました。なぜそこまで言われるのでしょうか。サタンのパシリになってしまいます。神の願いを知らないで、良かれと思ってやるのがダメになるだけではなく、サタンの同労者になります。皆さん、これでも神の願いについて興味を持たないのでしょうか。神の願いがなんなのか、それに集中するつもりなどないのでしょうか。どうになってしまうのか。ペロがこのように言われるほどなのです。もちろん今の皆さんは、当時のペテロよりは信仰のある祝福されたレムナントに間違いありません。しかし、忘れてはいけないのは神の願い、人の救い、それが絶対価値であり、善悪の基準だということです。これが分かっているだけで Only になるしかありません。それが分かっていると、意図していなくても自分の願いの奴隷になります。祈りが変わらないのです。教会に20年、30年通っていても内側から古い人が取り去られることなく、サタンのやぐらがずっとその人の内側に立っているままなのです。神の願いを知らないで。神様は私たちに他のすごいことを要求していらっしゃるわけではありません。キリストを通して、聖書を通して明白に示されました神の願い、それが何なのか。なぜ神はそれを願っていらっしゃるのか。それほど。そして、その神の願いを自分の願いにするとすることを神様は求めていらっしゃいます。今どれほど弱さを抱えているのか、どれほど陰しい環境なのか、一切神様には関係ございません。皆さんが神の願いを正しく知ることを望んでいらっしゃるし、それさえあれば他は神様が地の果てにまで証人となれるように働かされると約束していらっしゃいます。皆さんの弱さが証拠に変えられるように働かされると約束していらっしゃいます。なぜパリサイ人とペテロは、このように酷いことを言われることになったか。なぜサタンのパシリになってしまったのでしょうか。霊的事実を全く知らない、あるいは示されても認めないからです。教会にいくら通っていても霊的事実、聖書だけがおしえている霊的事実を認めないと宗教から脱却することはできません。

なので、今日のメッセージを通して心からこのように思い決心しましょう。霊的事実を心の中心から認めましょう。誰かのせい、皆さんがこうだあ、家庭があれだこれだではありません。神様を離れてたましいが死んだままの状態、悪魔の奴隷、地獄の運命を抱えていたので、自分の人生はこんなにつらいことがあったんだ。世の中を見ると同じなのです。何が傷になるのでしょうか。傷になるということ自体が霊的事実を全く知らないで、また語られていても認めないからなのです。だから未だに何かのせい誰かのせいなのです。だから。神の願いを知るために聖書がおしえている霊的事実を心から中心から認めて、それでやっと神の願いに目覚めましょう。なぜキリストを十字架にまで引き渡されたのでしょうか。皆さんのこの霊的事実と神の願いを除いて、私たちが分かっている知識でいくら考えても答えは出ません。キリストが十字架でなぜ死なないといけないのでしょうか。だからペテロも止めたのです。

そして、神の願いに目覚めたときに、誰がなんと言おうが、神の願いを自分の願いにしましょう。つまり、願いをチェンジしましょう。何が願いでしょうか。温かい家庭でしょうか。成功してみなに見せつけることが願いでしょうか。みなに認められることが願いでしょうか。何が願いなのでしょう。自分の願いをチェンジしましょう。神の願い、救われること、救いを豊かに味わうこと、また他の人が救われること、これに願いを取り替えて絞りましょう。

それで今日から他のことよりまず優先して、自分が救われることを感謝して、それを味わうことを優先しましょう。これが神様の願いなのです。なぜ今理解に苦しむような理不尽なことが自分にはあるのでしょうか。この救いを感謝して味わってもらうために許されているものなのです。他の何かを考えないように。そして、その救いを味わい、他のたましいも救われることを祈りましょう。それを祈りにしましょう。

それでこの救いを感謝し味わい、他のたましいも救われるこの神の願いのために、ということタイトルにして、この願いのためにということを出して、皆さんの人生すべてを再編集しましょう。勉強する理由は、この願いのために勉強するんだと。なぜ健康管理をしないとイケないのでしょうか。この願いのために。救いを味わい他の人が救われることのために健康管理もやるんだと。なぜ経済が求められるのでしょうか。なぜお金を稼ぐのでしょうか。他の人が救われることのためにこの経済も必要なので。なぜ結婚するのでしょうか。この願いのために、他のたましいが救われる神の願いのために結婚

が必要であれば結婚するわけです。なぜ家庭を築いていくのでしょうか。この願いのために家庭が求められます。全部再編集しないといけません。自分に許されている才能は自慢のためでも成功のためでもありません。なぜなのでしょう。救いを味わい、他のたましいが救われることのために許されている才能なのです。5000 未伝道種族の中に救われるたましいが備えられていて、47 都道府県、一千大学に皆さんのいらっしゃるその現場に、必ず永遠のいのちに定められているたましいがいる、その出会いを神様は用意していらっしゃるのに、私たちの願いがそこにはないのです。今日死なないで目覚めて起きました。今日の一日はなぜ許されているのでしょうか。永遠のいのちに定められているたましいが救われることのためにです。これが祈りの課題です。これが私たちの願いです。神の願いが分かった人の願いのチェンジです。皆さん、自分の願いをもってこの神の願いのかたまりでありそのために十字架で死なれたイエス様の前に立ってみてください。皆さんの願いをもって。弟子たちが今までの願いは、願い中の願い、国の願いであり、家系の願いであり、自分の願いであり、まるで今、戦争している国の人々の願いのように、このイスラエルの国が植民地から解放されるという願いを持ってイエス様にぶつけました。そのときにイエス様はそれはあなたがたは知らなくてもいいよ。聖霊が臨まれるときに力をもってエルサレムからユダヤ、サマリヤの全土、地の果てにまで、あなたも現場から 5000 未伝道種族にまでイエスの証人となります。願いを変えなさい。皆さんの願いは何でしょうか。それをもって神の願いのために十字架で死なれたイエス様の前に持って行ってください。「イエス様。大学に合格したいです。すごい企業に就職したいです。これをこうしたいです。この恋が叶うように」等々、様々な願いをもって持って行ってください。イエス様は、それはあなたを知らなくてもいいよ。あなたがたはそういう願いとらわれるほどのちっぽけな人生を脱却して、御座の祝福のすべてをいただいている神の子どもなんだよ。願いを変えなさい。Only 聖霊が臨まれると、御座の祝福によってこの地に神の国のことを現わす証人になれる存在なんだよ。ぜひ私たちの命より大切な救い。そこに神の願いがあるということをしっかりと覚えて、このみことばを通して神様が自ら皆さんひとりひとりに直接語りかける神の御声が聞こえてくることをお祈りいたします。

(祈り)

恵み深い父なる神様。ありがとうございます。ここに集っていらっしゃる尊い神の子どもひとりひとりの上に、自分の願いを捨てて神の願いを絶対価値として正しく目覚めて、その神の願いを自分の願いにして祈ることができるように。それで神の答えを回復することができるように御座の祝福をもってひとりひとりに臨まれてください。自分の願いが崩れていくことができるほど、御座の栄光に満たされるように聖霊様が豊かに働いてください。神のメッセージがひとりひとりに直接語りかける神の御声として聞こえてくるように聖霊様が働いてください。イエス・キリストの御名によってお祈りをいたします。アーメン